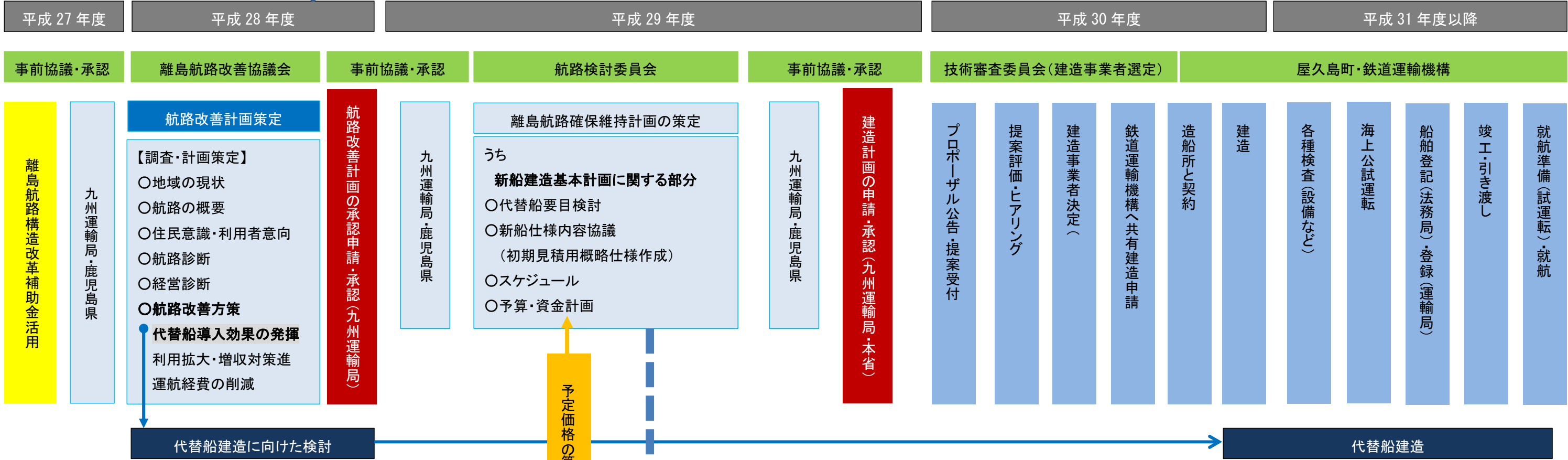
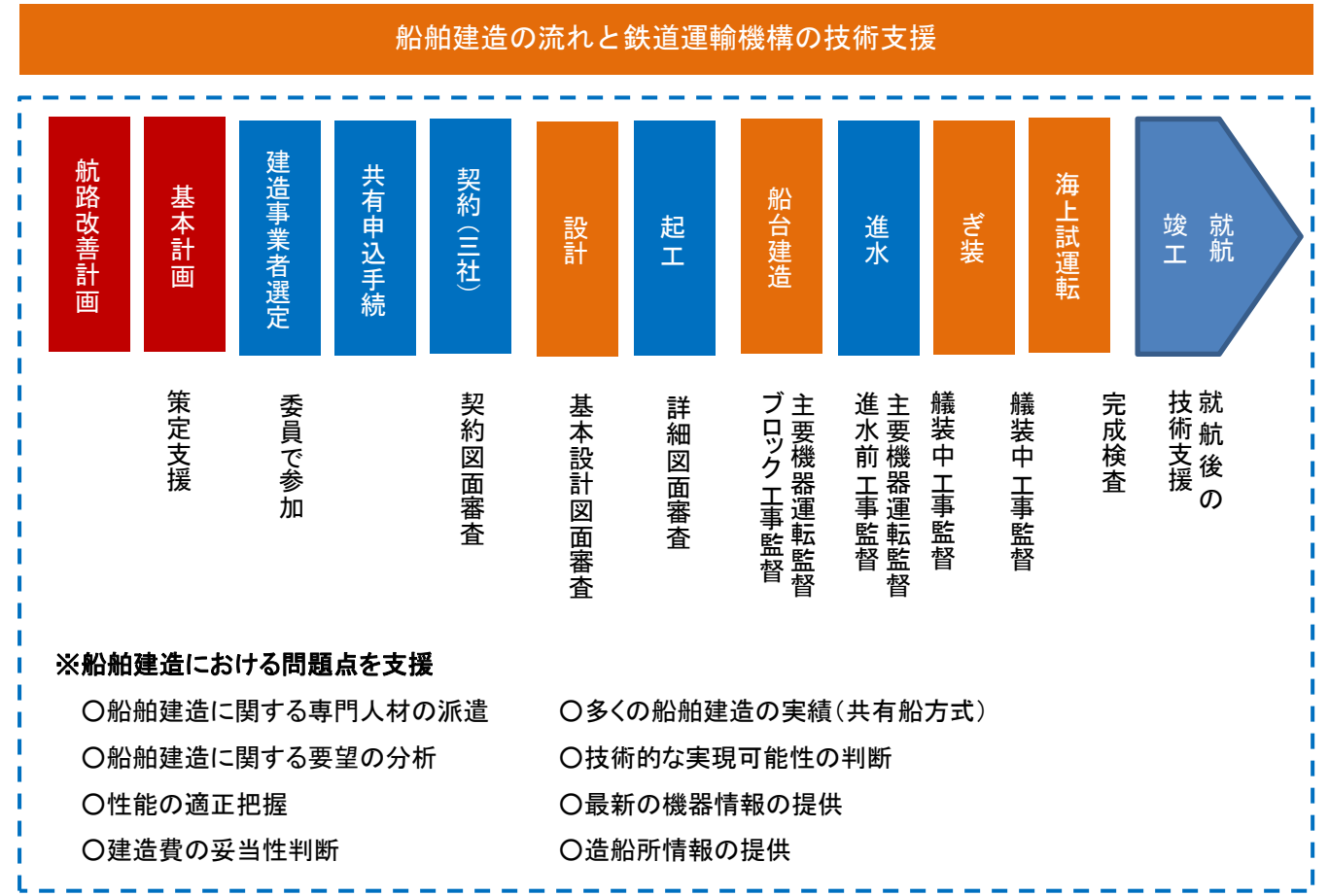


本年度

1 航路改善計画策定から船舶建造の流れ（例示）



- 基本計画策定のポイント
- 1 適正な各性能
 - ・船の大きさ(長さ、総トン数)
 - ・旅客定員(個室、寝台、椅子)
 - ・乗組員定員(室数・設備)
 - ・車両搭載台数(種類、台数)
 - ・貨物搭載量(種類、重量)
 - ・航海速力とシーマージン(経年劣化)
 - ・バリアフリー化(昇降機)
 - ・各種性能(通風設備等)
 - 2 適正な建造費
 - ・旅客設備
 - ・乗組員設備
 - ・車両搭載設備
 - ・貨物搭載設備
 - ・推進設備
 - ・バリアフリー設備
 - ・各種設備
 - 3 適正運航費
 - ・燃料・潤滑油費
 - ・入渠費
 - ・整備費
 - ・消耗品費
 - ・設備維持費
 - ・省力化



- ※船舶建造における問題点を支援
- 船舶建造に関する専門人材の派遣
 - 船舶建造に関する要望の分析
 - 性能の適正把握
 - 建造費の妥当性判断
 - 多くの船舶建造の実績(共有船方式)
 - 技術的な実現可能性の判断
 - 最新の機器情報の提供
 - 造船所情報の提供

資料 「基本計画策定支援」独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(略称 鉄道運輸機構) 「九州離島航路経営改善ガイド」(平成 24 年 3 月、九州運輸局)

2 航路改善計画策定のスケジュール

